

## 平成23年度川崎区区民会議第3回高齢者部会

日 時：平成23年9月7日（水）18時30分～20時30分

場 所：川崎区役所7階第2会議室

出席者(敬称略)

(1) 委員 4人

星川孝宜、赤間靖夫、猪熊俊夫、服部正夫、吉野智佐雄

### 1. 開会

(事務局)

<会議の成立、会議開催の事前公表、会議録の開示、傍聴の遵守事項、会議の記録、広報としての写真撮影を説明、出席者の紹介>

#### (1) ウォーキングガイドブック改訂版の活用方法について

(星川部会長)

お手元の次第に沿いまして進めたいと思います。まずは、次第を見ていただきたい。

今回議題については、ウォーキングガイドブック改訂版について2つ目が「コミュニティバスの導入」に関する区民意識の把握について検討したいと思います。本日は、地域保健福祉課長もお見えです。区民会議の提言でガイドブックを作ることとなりました。ウォーキング推進員と相談したうえで資料をお作りいただいたので資料説明をお願いしたいと思います。

(地域保健福祉課)

資料1の説明。

(星川部会長)

今、白川課長の方からご説明を頂きましたが、仕様のところは、高齢者部会から出されて意見が取り上げられていると思います。ご意見・ご感想をお願いします。

(猪熊委員)

B5版は、新しいもので良いと思いますが、5,000部をどう分けるかが一番問題だと思います。私どもの商店街に30部いただいたら、各商店街の方に1冊ずつ備え付けられるのか。売り出しとかPRの方法もあるのではないかと。9つのコースは、良いコースだと思います。

(星川部会長)

猪熊委員から活用方法についてご意見をいただきました。資料2の方にご説明がありますので、資料1についてお願いします。

(吉野委員)

5,000部というのは、少ない感じがします。前は、何部ぐらい発行したのですか。

(地域保健福祉課)

前は、4,000部です。初め2,000部を作って、追加でまた2,000部作っている。現在500ぐらい余っています。

(吉野委員)

配布方法に工夫が必要だと思います。それと高齢者5,000人でいいのですかという素朴な質問です。

(猪熊委員)

これから川崎区の人口は、150,000人でその中の20%がこれから高齢者になります。そういう事を考えると5,000部では少ないのではないかと思います。第1回目として5,000部でやって、早く出てしまったら第2版として何千部かたしながら増やしていけばよいと思います。単純計算して、5,000部では少ないと思います。

(吉野委員)

30,000部は、必要です。バージョンアップして定期刊行で出してもらえるのですか。

(猪熊委員)

川崎区の中で町内会は、何町内会ぐらいあるのですか。

(上野副区長)

91町内会で、自治会があるので、合わせて104町内会あります。

(金子課長)

町内会に配ってしまうと足りなくなってしまうので、有効な配布方法を考える必要があると思います。

(星川部会長)

予算のことも有ると思いますので、ほしいという要望があれば増刷していただくような方向でどうでしょうか。

(赤間委員)

前は、4,000部で一応余っていると聞きました。

(地域保健福祉課)

前は、駅前の案内所に置かせて頂くと川崎に初めて来た方が持って行って、あっという間に無くなってしまう状況だったので、あまり出せません。

(吉野委員)

展覧会や何かで、通りがかりの人がみんな持って行ってしまいます。行政が出したものをすぐなくなるほど、人気があるのは、良いことではないか。必要な人が申し出れば、いつでも差し上げるというのは、抵抗を感じます。気軽に貰える中に使用価値が上がってくると思います。

(金子課長)

経費がどのくらいなのか。

(地域保健福祉課)

まだ、1社だけですが、地図関係の会社で、165万円という形で見積もりがでています。

(金子課長)

1冊当たり、300円くらいですかね。費用対効果を考えると必要な人に必要な分だけを渡したいですね。

(吉野委員)

効果の測定は、大事です。渡す前に制限しておくのはどうかと思います。

(金子課長)

活用方法を次の(資料2)の中で、どういう風に活用していったら、効果的に皆さんにゆき渡るかを検討していこうと思っています。

(吉野委員)

私は、直感的に5,000部は少ないと思います。

(星川部会長)

次の活用に影響があると思いますので、服部委員は、(資料1)のスケジュールとかコース設定についてどう思いますか。

(服部委員)

川崎区の場合は、川崎市内でも平坦なところで、ウォーキングには最適なところなので宣伝もできる。高齢者にとって坂道というのは、一番厳しいと思います。高齢者になると膝も弱ってくるので、高齢者向きのウォーキングコースというのをアピールできる場所がありません。膝が弱っているのだけれどウォーキングしたい高齢者の方も沢山いる。

このコースを網羅するのはすごく良いと思います。膝が弱いとトイレが和式だと出来ない人がかなりいる。公衆トイレもそうだけれど、洋式のところがほとんどないし、車いすで入れるところもない。川崎も近代都市にならなくてはいけないので、段々有名な公園では、普通の公衆トイレでも車いすで入れる洋式が増えている。循環式の水が出てきている。野宿されている人もそこで寝泊りが出来ないような工夫がされているとか、禁煙とか工夫されている。高齢者等の足腰が弱っている人も参加できるというのは、川崎区の良い所が出せるのではないかと思います。トイレの件もすぐに変えるわけにはいかないだろうけれど、洋式のトイレを使える場所も入れて頂けるとより広く人が参加出来ると思います。

(星川部会長)

洋式トイレの表記もした方が良いでしょうね。

(服部委員)

膝が悪くて、遠くまでいけない人もおられるし、平日だと遠くまで行ける人も結構います。

(上野副区長)

先程、5,000部ということで、勿論予算の範囲内ということですが、今契約の形態が入札で落としていると聞いていますので、今回の契約については、今の範囲の中でいくと思いますが、年度中あるいは、来年度好評であれば、増刷をするというのも手法として十分あります。先程、委員の皆さんが5,000部でどうなのかというご意見がありましたが、川崎区で高齢化率は、18~19%ぐらいだと思います。市の中では、高齢化率が高い区になると思います。人口21万人の中で単純計算しても4万人の65歳以上の方がいることになります。中には、歩くのがご不自由な方もいらっしゃると思いますが、そこからどれくらいの方がご利用いただけるか。あるいは、高齢者に限らず、子供さんを連れて歩く方もいらっしゃるのです。そういう意味では、部数をもっとあった方が良くないかと思うのは、当然のことなので。増刷も念頭に置いて、考えていきたいと思っています。

(星川部会長)

その他、トイレの表記に工夫をして頂けるようにお願いします。

(猪熊委員)

これは、余談ですがパチンコ屋さんのトイレは入りやすいです。食品関係を扱っているところは、入りづらいので、パチンコ屋さんのトイレを対象にすすめていったらどうなのかなと思いました。

(星川部会長)

今回、部会の方に初めてご出席の赤間委員どうですか。

(赤間委員)

高齢者とうたっているものですから、川崎は平坦といっても車は多いし、段差とか危険なところも避けてコースをつくるのだらうと思います。9つのコースをガイドブックにまとめると、高齢者のウォーキングなので、体力づくりが盛んになってきているので、参加する方が多いと思います。さっき言われたように部数がほしいと思います。

(地域保健福祉課)

次に資料2説明。

改定版の活用方法について意見を聞きたいと思います。

(服部委員)

老人クラブは、川崎市では、30,000人弱で川崎区としては、9,000の方が加入されている。実際にウォーキングに興味がある方がどれくらいいるのか分かりません。すべての人に配る必要はない。クラブ単位でやっているの、ある程度必要な方に配って頂きたい。

(吉野委員)

老人クラブやウォーキング団体に入っている方は、積極的にこういうものを活用されるの、だらうけれど、そういう人に仕向けるのではなくて、私の認識は、平日家に籠っている方を外にひっぱり出すために使ったらどうか。寝たきり予防とか、痴呆予防とかにつながっていくのではないかと考えます。興味のある人に差し上げるのが趣旨ではないと思っています。

(猪熊委員)

来月 JR で川崎駅から大師駅まで歩く、ウォーキングラリーがあって、2,000人集まるかもしれないということを聞いた。集め方で人はくると思いますが、それは、毎日9つのコースをいろんな人が勝手に歩くのか、それともあるところがまとめた中で、やるものなのか違いが出てくると思っています。まとめてやるのであれば、10・11月に私どもの方でタッチラリーを各イベントで行います。いろんな企業を集めての商品を頂きながら、完全に歩いた人には最終的に何かを差し上げるとか。完歩した人には、表彰状をあげるとか。いろんなやり方が出

来るのですが、どのような活用をしていくのか、どのような方向で動いていくのですか。

(金子課長)

出てこないような人達をひき出すような方策は、具体的に何かあるのですか。

(吉野委員)

例えば、ガイドブックとかが、目につくようなところに家があれば。よく女の人は、先に出ていて、あなたごろごろしてないで出てらっしゃいという時に使えます。

(金子課長)

そのきっかけをどのようにつくるのですか。

(吉野委員)

川崎にも散策できる場所がありますよ。お年寄りに聞くと川崎には散歩コースが何も無いと言われます。歩かないで勝手に想像している。麻生区には、緑豊かで自然があるけれど、川崎区内には無いでしょうと言われます。川崎区は、平らで高低差も無くて歩きやすいという良さがあります。

(金子課長)

そういう人達にどう働きかけをすると動くのですか。そういう人達には、本を持っていくだけではだめです。

(猪熊委員)

PR方法とすれば、商店街流に言えば、各お店に小さく壁にパンフレットを貼りつけてもらうとか、各町内会の町内会館に貼りつけてもらうとか。私の所属しているクラブでは、ほとんどがみんな60歳以上の人だと思いますが、そういう人達にパンフレットを配ってあげたりする。

(吉野委員)

持っていてあげるのでなく、身近にそういうものが始終目に触れるようにする。スタンプラリー的な形式をすれば、最後のお店に記念品を貰うとか必要だと思います。

(金子課長)

今、ウォーキング推進員さんたちとこれを作っていて、そういう方達を中心に9コースを歩くツアーを毎月仕立てていくことはできますか。参加された方には、もれなくガイドブックを差し上げますみたいなやり方で配ることはどうですか。

(地域保健福祉課)

今、毎月推進員さんはやっています。

(金子課長)

例えば、今月はA1-1のコースを歩きます。参加する方には、もれなくガイドマップを差し上げます。歩き方を学んで、自分達で周ってくださというのがきっかけづくりになりませんか。

(吉野委員)

そういうのが良いと思います。

(金子課長)

やる気がある人が、もらっていってくれると思います。

(吉野委員)

やる気のない人も出てくるかもしれないですし。

(猪熊委員)

この9コースに案内人が1コースずつ、必ず付くのかどうか。1コースは、月に1回歩くとか。

(地域保健福祉課)

今は、無いです。各自が地図を持って、自由に歩くという形です。毎月1回参加賞をやっていますが、その際は・指導員さんが20名近くついて、参加者も60~100人ぐらい参加しています。

(猪熊委員)

一人で歩くのは、自分を考えた時に歩きにくいと思います。1~9コース月に1回で良いから誰か指導者がいて、今月は1コースを歩きますとか、3コースを歩きますとかという形をつけていくと色々な人が集まってくると思います。

(吉野委員)

動機付けにはいいと思います。

(猪熊委員)

1~2回出ると友達ができてくるが、とっかかりを強い力で引っ張っていかないと、ガイドブックを出しただけでは発展していかないと思います。

(星川部会長)

それがまさに散策イベントだと思います。ガイドブックがまとまる前にやるとなると我々の任期中に年度内にやる形になると思います。ガイドブックが出来てから配布するのと併せてやるとしたら、来年度、4月以降の話になります。散策イベントが必要ですねと言った時に年度内にやりますか、次年度でやりますかという話に具体案としてなってくると思います。

(猪熊委員)

何もない所でやるのは、難しいと思います。

(地域保健福祉課)

ガイドブックが出来上がってなくても、あるコースを歩くのは、コピーでも何でも構わないですよ。そういう方法で歩くことはできます。

(金子課長)

出来上がったのをその場でお披露目したいという気持ちはあります。

(吉野委員)

今年度中にやるとなると今まで議論した、大師から石田の方のカラー刷りでなくても白黒でもやろうと思えばできると思います。

(赤間委員)

家の方の大師の老人クラブは、80人ぐらいいて、今度の10月4日に役員がついて、大師公園から六郷の手前から土手を歩いて又大師公園に戻ってくる1時間ちょっとのコースをやるという回覧板が今日まわってきました。指導員がいて、回覧板でいつやりますからみたいな話がくると参加にしてみようかという気になります。

(吉野委員)

一度出てきて面白いと思えば出てきます。

(星川部会長)

散策イベントは、集合場所さえ決めれば、いつでもできると思います。今議論したいのは、区民会議として年度内にやりますか。ただ、今の状態だとガイドブックはまだ出来ていない。

コピーを元にやるか、それともガイドブックが完成していないから年度内はやらないかについて、今日決めておきたいと思います。

(猪熊委員)

先送りが出来るのなら3月にガイドブックが完成して配布を済ませる。活動の方は、次年度でもよいかと思います。無理して今年度、準備不足でやることは無いと思います。

(服部委員)

ガイドブックが出来て、いろんな方がいると思いますが、日頃からウォーキングをやりたい人、きっかけがあったら参加したいと思っている人が一人でも出てくれれば効果があるわけですから。

(赤間委員)

ウォーキングガイドブックが出来てから、それを参考にして歩く人ができればいいと思います。

(吉野委員)

ところで、ご説明頂いたスケジュールの3月というのは、動かしがたいのですか。

(地域保健福祉課)

ぎりぎりのところで、本来なら2月下旬までに作る予定でした。

(星川部会長)

第3期の部会で提案したことを第3期中で事業として実施して完結したいという思いは、強くあります。先送りはなるべくしたくないという思いもあります。

(金子課長)

課題解決のための調査・審議をしてもらっているので、1回限りのイベントをやって終わりではないと思います。先程から服部委員がおっしゃっているように一人でも増えていくという先の話をしてもらっています。3月に1回やったからそれでいいという話ではないということは、認識して頂きたいと思います。継続して、そのきっかけづくりをどういう仕組みでやれば出来るのかを考えて提言して、それを4月以降にやるのか、3月以降にやるのか、準備不足のままスタートしてやるのか、そこまでのやり方を提言としてまとめて、区に返すという。

(吉野委員)

実際に実行の伴わない討議ですよね。一応ここら辺まで実証して宿題だねと問題点まで出せるのではないのでしょうか。

(金子課長)

3月には報告書を出さないといけないので、もっと前に実験をしてそれを網羅した上でこは、改善が必要というものを3月に出さないといけない。

(上野副区長)

委員の様に発言してはどうかと思いますが、こちらの最終的な成果物が出来るのは3月でやむを得ないが、その前に何かしら行動をおこしたいという考えと成果物が出来てそれをみなさんにお披露目をしたほうがよいという考えがあると思います。ただ、時間的なものもあるかと思いますが、例えば、区民会議のメンバーが、地図のコピーでもいいのですが、第1稿が出るのが1月ですから、9コースの中の1コースだけを選んで区民会議の委員が歩いてみる。それに対して、金子課長の方で申し上げた、歩いてみてこうだった、ああだったというのを最終的な提言に盛り込むという事であれば、スケジュール的には可能ではないか。区民会議自らが歩くというアピール度もあるかと思いますが、可能ではないでしょうか。

(星川部会長)

区民会議の課題の緊急性・重要性・実現性というのを三本の柱の一つにしている。川崎区の区民会議は、提言したら終わりですよという形はやめましょうというのが第1期から流れている。なるべく形にして行動して、そこで見直しがあれば、当然次の期にまわす。紙の上だけで処理するのはやめて、やってみたいですねという話があります。これから半年ある中で、どう考えても無理だという事なのか、きっかけづくりもそうです。口火を切ってやってみたいと思います。

(吉野委員)

今、副区長がおっしゃったような提案だったら私は賛成ですね。

(上野副区長)

先程、ガイドマップの活用方法のお話が出た中で、情報を取りやすい方は取って頂く、なかなか外に出にくい方とか、一人ではなかなか歩きにくい方達については、老人いこいの家は、1つの高齢者が集まる場所であるのでおすすめしたいです。老人いこいの家は、わりと家の中で活動する人が多いので、そういう方達が知り合いと一緒に外に出ていくというのも効果としてあるのかなと思います。もう一つは病院です。病院には、いろんな方々がいらっやって、配らなくても見ていただける形も良いのかと思います。ガイドマップの中に老人いこいの家を落とし込んで、自分達が通っている老人いこいの家や自分の家の地域のマップの

コピーを置いておけば、そこから歩いていける。9コースすべてを冊子で持っていたい人はもっていても良いし、試に近くの一か所のコースに行ってみようかなという人には、A3 ぐらいのマップを用意する。活用方法も検討していただけたらと思います。

(服部委員)

ウォーキングマップは、他にもあると思いますが、高齢者向けに配慮した部分がある、字を大きくするとか、拡大して見やすくするとか、老人が立ち寄るような憩いの家や病院に置いてもらうのも良いと思います。

(上野副区長)

先程おっしゃっていた高齢者の方は、非常にトイレが気になるので、パチンコ屋さんのトイレ、病院・老人憩いの家・デイサービスセンター等のトイレは100%洋式トイレがあるのでトイレマークをして、そのところ広報も兼ねてやられるのもいいのではないのでしょうか。

(星川部会長)

年度内にイベントやってみるという方向でいいですね。

(上野副区長)

区民会議の委員ならできるのではないですか。

(赤間委員)

さっき副区長さんが言われたように自分がこの9コースで行きたいところがあれば、拡大コピーしてもらえればよいのではないのでしょうか。

(上野副区長)

これは麻生区のマップですが、B4サイズなので、もっと大きくA3にコピーするだけだったらお金はそんなにかからないと思います。冊子だと330円かかるので。

(猪熊委員)

1稿が出来た時点で見たい。それを参考に2月なり3月なりに区民会議の中で歩くのはどうですか。

(金子課長)

1月中に行ってコメントを出せば、報告書の中に盛り込めます。みなさんが歩く様子を写真に撮って載せることができます。

(上野副区長)

委員さん 20 名いらっしゃるので、半分でも 10 名はいますし、事務局や区長も歩くと思います。

(星川部会長)

1 月にガイドマップの 1 コースを区民会議の委員で歩くことを実施いたします。

(上野副区長)

今、9 コースあるわけで、どこのコースを歩いてみるかを前もって伝えておくと思います。

(金子課長)

次回全体会議が、10 月 4 日にあるので、そこで委員さんに図ります。

(星川部会長)

改訂版の活用方法としては、老人いこいの家や病院への配布を考えたり、1 冊納める形だけではなくて、抜き刷りでその地域のものを地域限定で配布するとか部数の少ない部分をカバーしていく。2 つ目の改訂版を活用した散策イベントについては、報告書にも盛り込みたいので、散策イベントは 1 月に実施します。

## (2) 「コミュニティバスの導入」に関する区民意識の把握について

(星川部会長)

資料 3 の説明。。

(猪熊委員)

川崎市の交通局に区民会議からコミュニティバスの要望書を出せるのかどうかお聞きしたい。

(上野副区長)

区民会議からの要望書は、ちょっと難しいです。

(猪熊委員)

これをやるにあたって、川崎市の交通局を動かすためには、どのような方策をすればよいのですか。

(上野副区長)

あくまでも区民会議からの提言として、区長にお出し頂く。区民会議の委員さんは、条例で定めている附属機関の委員になりますので、特別地方公務員という位置づけの中で要望を出すという形は無いです。あくまでも区長に対して提言を出す仕組みになっています。

(猪熊委員)

その方法でやろうと思うのですが、これからやるべきことは、まず第一に前回も議論しましたが、アンケート調査をやって頂きたい。アンケート調査もTMOの方ではやっているのですが、集まりにくく回答が少なくなってしまうので、区民会議の中でアンケート調査は必要ではないかと思います。アンケート調査も特に川崎区のバスルート付近の町内会に絞ってやる必要があるかと思えます。これは、担当企画課長さんのご意見も聞かないといけないと思います。

(上野副区長)

むしろ区民会議として、皆さんがどうされるかということです。

(金子課長)

皆さんの意見に対して出来ること、出来ない事、行政の立場でものを言わせて頂きます。

(猪熊委員)

先程申し上げた我々がアンケート調査をした地区が、駅前本町・砂金1・2丁目・宮本町・東田町・小川町・日進町・南町・榎木町等々のアンケートを取っているのですが、皆さんのご意見を聞きながら進めていきたいと思えます。

(金子課長)

町内会にアンケートを送ったのですか。

(猪熊委員)

町内会の町会長あてに出しています。

(星川部会長)

次に吉野委員お願いできますか。

(吉野委員)

こちらのスタンスとして早くコミュニティバスを実現する為にどういうコンセプトでどういう提案をしなければいけないかという点から入っていきますと本当にニーズがあるのかどうか、それを定量的に把握するにはどうしたらよいか。コミュニティバスがあった方が良い

という意見ばかり出てきますが、実際に運営したら乗らなかったじゃ困るので、バスが運行したらどのバス路線のルートに乗りたいのかを含めてアンケートをする。そのアンケートによって、ルート選定もした。いずれもバスを利用したいニーズがあるのかどうかを定量的に把握する為にアンケートを実施した。当事者同士で議論しないと設問の仕方によっては、違うものになってしまう。定量的に把握してもなおかつ、道路交通規制とか陸運局とかハードルがありますので、ニーズに立脚した提案をする場合にも短期的な対応と長期的な対応があるのではないかと。短期的な対応というのは、アンケート調査で非常にニーズが高い地域特定エリアの既存路線のバス会社に対するバス路線の変更。既存の市営バスの路線変更や特定の小さなエリアを運航してみて、効果を見てみる。

(猪熊委員)

そこまでいってしまうと我々しろうとでは無理な所がありますので。

(吉野委員)

勿論、無理な点は法律等の詳しい方に入って頂いて、色々助言を頂きたいと思います。

(星川部会長)

資料3を見て頂くと分かるようにご意見が分かれています。導入に向けて必要な事が右端に書かれています。区民が本当に必要性を感じているのかどうか。その裏付けとしても区民の声を掴んでおきたい。

今まで、部会で議論されてきたこと、重複する部分がございますので、区民意識がどういふところにあるのか。コミュニティバスがあればいいねという事に反対する方は無いと思いますが、具体案になった時にいろいろご意見が出て、運行にあたって経費負担とか、財源問題とか出た時に実現性はどうか。川崎市内でもいろんな地区で宮前区・麻生区でも試験的な運行をされている所がございます。この平坦な地である川崎区でコミュニティバスを運行するにあたって、どうしたらよいかということをお場で議論したいと思います。

お願いしたいのが、来年の3月まで半年の中で資料4のスケジュール案によりますと部会は残り3回を予定しております。2月というのは、ほとんどまとめになると思います。時間的な制約のある中で高齢者部会としてどこまで、コミュニティバスにかかわるのか。その辺りも含めて、これというところを示してくれたらなと思います。本日の参考資料として「やまゆり号」について説明をお願いします。

(金子課長)

参考資料（報道発表資料）説明。

麻生区の高石地区は、高低差が激しくて、川崎区のような平坦な地とは、条件が違っているので参考にならない。具体的な相談をするためには、具体的な理由と目的を交通政策室の方に持ち込まないとまちづくり局の方でも、どういう形を求めているのか言われてしまうと思いま

す。こういうやり方でやりたいとか、こういう形にしたいというものがあると行政も相談には、のってくれると思います。最初にコミュニティバスの話があった時に交通政策室の職員は、川崎区のコミュニティバスもしくは、路線変更についての考え方を聞いています。

(猪熊委員)

この間ムーバスの説明がありましたが、そのほかにも渋谷区コミュニティバスというのもありました。これも渋谷区が運営主体をやっている。21条バスというのは、自治体でバスタクシー業者がやっている。80条バス・80条タクシーも自治体でやっている。新乗合バスというような形でバスタクシー業者が運営している。代官山循環線は、東急トランスというところがやっている。渋谷～代官山のシャトルバス。川崎市では、山ゆり号の循環バスが出来ましたが、KSPのシャトルバスとして、溝口と神奈川サイエンスパークをつないでやっている。料金の方は、大体100円均一が多い。

まず、高齢者対策として、川崎区の中で横のつながりがこれから必要になってくると思います。高齢者率がどんどん高くなっているので、シャトルバスが絶対的に必要になるのではないかと。ワンコインバスの構想の目的は、回遊性の向上とか、引きこもりの高齢者が出やすくなるか、地図の地点に出ていく為にもバスを利用したい。そこからいろんな催しにも回遊性のコミュニティバスが必要であると考えます。小田から大師に行くときも一旦川崎駅に出てきて、川崎駅から大師駅に行くような形になるので、簡単には行けない。このような不便さを解消する為に区民会議としてお願いしていきたいと思います。出来るとすると今度業者選定とかいろんな問題が起きてくると思いますが、TMOに投げかけていただいても良いと思います。あるいは、川崎市の交通局が動いてくれても構いません。そこまでいくと専門的なお話になってしまいますので。区民会議でのまとめとすると、ここで出てきた皆さんの意見にアンケート調査を付け加えて、区民会議のシャトルバス導入のお願いというところに位置付ければよいかなと思います。

(星川部会長)

コミュニティバスの導入ということを前提とした議論に区民会議では、時間を費やしてきましたが、区民会議でさばける課題ではないなという気がします。受け皿がTMOになるのか、麻生区はやまゆり号でいえば、麻生区コミュニティバス協議会というものを立ち上げて、イベントをされた結果だと思えます。区民会議として、区民が必要だと高齢者にとって、課題解決の1つとしてコミュニティバス是非という声になれば、アンケート結果ですが、組織を作って協議を深めていきたいと思いますというところが今年度の区民会議で出来るところだと思います。

(吉野委員)

区民会議で1年前から取り上げて、ここに参加されている方からは、コミュニティバスが必要だねと意見がまとまっています。あとは、区民レベル全部に広げて、本当にニーズがあ

るのかどうか。これくらいのニーズがあるから、お考え頂きたいという提案までは出したいと思えます。それには、アンケート結果で一番多いポイントをとって、こういうニーズがあるのだから是非検討下さいと提案する。

(猪熊委員)

一番大切なのは、最後にアンケートをやって、区民会議の方向性をしっかり決めて終わらせたいと思えます。

(吉野委員)

アンケートを全区民を対象にすると大変なので、ある程度のサンプルエリアを抽出してアンケートをとった上で、もう取っておられるなら結果を見せて頂いて。コミュニティバスの必要性を取り上げて議論してきたのだから、継続していく議論は残ってしまうと思えます。

(猪熊委員)

当然1～2年で解決するとは思っていません。交通局なり臨港バスなり、そういうのを動かせる1つのきっかけにしたい。アンケート結果があるのですが、その中で見るとコミュニティバスは必要だというアンケート結果が出ています。採算性の問題にしても採算が合うだろうという結果が出ている。区民会議としては、採算性までやる必要はないだろうけれど、これに対して区民がどういう考えを持っているのか十何町町内会には、出せないものかなと思え、事務局にお願いしたいと思えます。これは、皆さんのご意見を聞きながら進めていきたいと思えます。

(吉野委員)

こういう区民からの要望も強いと思えます。

(服部委員)

区民からの要望も強いと思えますが、コミュニティバスの実現が簡単にいくのかなという疑問がありました。今日のやまゆり号の話もよく知っていますが、かなりここまでくるのに苦勞されて取り組んできていますから、川崎区のコミュニティバスは、そう簡単にはいかないだろうし、時間がかかると思えます。

(赤間委員)

京浜急行は、大師に近い人だけが利用していて、路線バスは132号線とか15号線を川崎に向かって走っている。川崎から各方面に分かれているので、小田とかに住んでいる人たちは、大師に行きたくても行きにくい、行くということになると乗り換えで不便である。バスの路線を変更するのは、非常に大変な事であると思えます。今、日清製粉の方にいっているバスを川崎の病院の方に迂回して、ひとまわりしてもらいたいという話も出ているけれど、非常

に難しい。朝とか晩とか大きな会社の従業員を運んでいるので、時間的に無理だと。昼間だけでもモデル試行してやってもらえないかという話も出ております。そういう意味でもコミュニティバスが走るようになれば、便利であるので、区民会議で議論して提案して頂きたい。

(星川部会長)

今後の構成としては、区民会議としての取り組みは、ニーズ調査をすることまでを今年度の事業とさせていただきたいと思えます。高齢者に喜ばれるように区民会議が提案できるようにしたいと思います。

(吉野委員)

やまゆり号のいきさつが書いてあるのですが、平成16年11月に麻生区コミュニティバス協議会を設立したと書いてありますが、川崎区コミュニティバス協議会を設立して議論を深めましょうということを提案します。6~7年かかっていますね。それ以前の不満や要望まで含めると実現するまでに10年位かかっているのかもしれないですね。

(猪熊委員)

なんとかこれを実現することによって、川崎区の中の交通体系も動かすことによって変わるのではないかと。区民会議の中間報告書の中にコミュニティバスは、絶えず議論されているが採算性の問題で進展しない。実効性のある議論を期待している。こういうのを見ても難しい問題で、私どももこれを作るのに約3年かかっている。色々調査をした中で、またこの区民会議の中で、皆さんの意見を聞きながら広めていきながらひとつの形をつくりたいと思えます。

(星川部会長)

ニーズ調査をしましょうということで、アンケートをどういう形でやるかということを決めなければなりません。

(上野副区長)

今日、いただいた資料3の中で、コミュニティバスのイメージとして、路線バスと同じ大きさではなく、こちらのやまゆり号のようなワゴンタイプの小型車をイメージしているのでしょうか。

(猪熊委員)

そうですね。路線バスと当然重複するところもありますが、川崎市立病院の先の信号を右に入っていくと当然路線バスが入れないような道の狭いところに入っていくと思います。

(上野副区長)

理解に差が出るといけないので、山ゆり号と同じような大きさの小型車を想定されていますか。

(金子課長)

やまゆり号は定員9名です。

(上野副区長)

もう1点ですが、想定するルートが、ここで4人の方のご意見の中で具体的なルートを示されている猪熊委員、また富田委員は、別のルートを考えていて、星川委員は、個別のルートではなく、課題を解決するためのルートだと言っていて、吉野委員については、ルートが複数。先程赤間委員がおっしゃっていたルートは、川崎区の小田京町の方から三の筋の交差点を右に曲がって、天日トンネルを通過して、渡田の公園を通過して、貝塚を通過して駅に向かう、日清製粉の27番という臨港バスの路線バスを新海通りではなくて、川崎病院の方までまっすぐ行って、市役所の通りを通過してくださいというご要望ですよね。今、複数のルートがあるので、今後アンケートを考えていかれるということであれば、ルートを固めて協議した方が良いと思います。

(猪熊委員)

想定指定ルートとして資料3に載せていますが、例えば小田の方がぬける場合に五月橋まで路線バスで来て、なんとか、シャトルバスに乗り換えて新海通りまでいける。さらに大師まで乗り換える。共通券を作ってはどうか。

(上野副区長)

その辺も含めて又次回以降協議頂きたいと思います。

(星川部会長)

小田・大師案と駅前の回遊性を含めて大きく2本だなと思います。小田・大師は、昔から言われてますが、本当にニーズがあるのか。川崎駅に出て大師に出てもいいよという人が結果的に多かったら。アンケートをとって初めて核心になる。アンケート取る前におとしてしまうとわからなくなる。アンケート取ることによってやらないという選択肢が出てくる場合もあります。

(猪熊委員)

今までもアンケートという話をしたことも無かった。ぜひともアンケートまでは何とかしてこぎつけていきたいと思います。

(星川部会長)

アンケートの作成に入りますが、猪熊委員の方からたたき台みたいなものを出せますか。

(猪熊委員)

たたき台はあるので出せます。それで皆さんが良いのかどうか。

(猪熊委員)

次回そのアンケートをみなさんにお出しします。

(星川部会長)

次回の部会のスケジュールとの兼ね合いもありますが、資料4をご覧くださいと10月4日に全体会議があります。部会はその後だと思いますが、ここでアンケート内容が決められると良いのですが、ということは、それ以前にたたき台をベースに各委員に素案を事前に配って、意見を集約しておいて部会に臨もうと思います。

(金子課長)

アンケートを実施する事は、大きな事なので、次回の全体会議に報告をかねて図る。具体的にやるとなるとどういうスケジュールでどういう作業が必要なのか。高齢者部会だけでやるのか、全体会議の位置づけはどうするのか。経費も時間もかかるし、どういう働きかけをするかもあると思います。

(星川委員長)

アンケートの具体案と実施方法までを全体会議に出すかどうか。アンケートの内容まで全体会議の審議事項にするのか

(金子課長)

内容ではなくて、どういう方向で、どういう主旨で。基本たたき台がないといけない。部会ではなくて区民会議としてやるので、他の部会の方にどう理解をしてもらうのか。

(星川部会長)

全体会議できちんと了解を得る事が必要となるとその前に部会を開いて、その辺りを整理しておくこととなります。

(上野副区長)

アンケートで、区民の方々に必要かどうか聞くときに、ここのルートにコミュニティバスが必要だと考えますかとお伺いをたてますよね。ルート関係なくコミュニティバス欲しいですかと聞いたら皆欲しいと回答すると思う。ルートが限定されてないところに必要か必要で

ないか判断がつかない。区民会議の全体会議の中で、これを区民会議の中でアンケートをやるかどうか。想定するルートが1つでなくても良いと思いますが、2つ3つの中でこういうルートをアンケートで聞きたいということを全体会議で合意が得られるかどうか。

(吉野委員)

私のイメージでは、コミュニティバスが必要だと思いますかという設問に対して、はい・いいえで答えてもらう。はいと答えた場合、どういうルートを希望しますか。例として3つ4つあげておく。100人に聞いたら100通りのものが出てきてしまうようだったら、コミュニティバスの利用者が少なくなってしまうかもしれない。話をしている限りでは、実感としてはあればいいねえという感じですが、あなたは、どこのルートがいいですかというとはっきりした答えが無い。高齢者になると必ず行かないといけない場所として病院があると思います。川崎病院を中心としたら、ある程度反応が出てくると思います。

(金子課長)

このルートで必要とするかしないか、必要とするなら年に何回で、週に何回利用しますかという現実的なアンケートを取らないと必然性がとれないと思います。

(星川部会長)

全体会議でアンケートの取り方を審議する前提になれば、部会を月内に開催して、猪熊委員の案をたたき台にする。全体会議のメンバーにこんな形でやりますと示したら、たたき台を見える形で出して意見を聞いて出す。

次回の部会は、9月22日(木)18時30分よろしいですか。

(コンサルタント)

大事なことが2つあって、高齢者部会の中で想定するルートの合意形成とそれに伴った質問。今皆さんからルートがいくつか出されていて、交通不便地域を明確にしたいのかというやり方もあると思います。

(星川部会長)

川崎区には、交通不便地域という定義だとそういう所は無いです。麻生区の高石地区には、まさに交通不便地域です。

(コンサルタント)

そうすると猪熊委員さんが進めるルートで高齢者部会の中で、合意形成がとれるかどうかだと思います。そうしないと設問の仕方の設計が出来ない。合意形成を22日に議論するのですね。

(星川部会長)

細かい記述は、来年度以降検討するところがすればよいと思います。

(金子課長)

部会での合意形成がされていないのに全体会議に図っても全体会議でいろんな意見が出てしまうということですね。それに伴うアンケートの内容もルートによって質問の仕方も違ってきます。

(上野副区長)

おそらくルートを決めないとアンケートを出来ないと思います。賛成・反対の意見が出せない。ここだったら賛成だけれど、ここは必要ないというような答えかたでないとどこがいいのか書けない。猪熊委員のアンケートを参考にして事務局でも拝見させてもらって、今日皆さんにお配りする分とちょっと手を加えさせていただこうかと検討させて下さい。

※次回の部会は9月22日(木)18時30分～開催することが確認された。

以上